

造影検査 説明書

今回実施する検査は、“造影剤”を使用して行う予定です。
造影剤を用いることにより、情報量が多く精度の高い診断が可能となります。
また、造影剤を使用しなくても検査は行えますが、十分な診断が出来ない場合があります。

《造影剤の副作用の種類》

造影剤は安全な薬剤ですが、まれに副作用を起こす場合があります。

主な副作用には次のようなものがあります。

● ヨード造影剤(CT・尿路・胆のう・胆管などの造影検査で使用)

1. 軽い副作用： 発疹、吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、蕁麻疹などで一過性が多く、基本的に治療を要しません。
このような副作用の発生する割合は、約100人に4人程度です。
2. 重い副作用： 呼吸困難、意識障害、血圧低下などがあり、通常は治療が必要で、入院や手術を行うこともあります。
また、まれに後遺症が残る可能性もあります。
このような副作用の発生する割合は、約1,000人に1人程度です。
3. 症状・体質によっては約10～20万人に1人の割合で、死亡する可能性もあります。

● ガドリニウム造影剤(造影MRI検査で使用)

4. 副作用の発生する割合は、ヨード造影剤(上記1～3)のさらに半分程度とされています。
5. 重度の腎障害($GFR < 60\text{mL}/\text{min}/1.73\text{m}^2$)のある方は、腎性全身性線維症(NSF)と呼ばれる病気を生じる可能性があります。

アレルギー体質、喘息の既往のある方にはこれらの副作用の発生する割合が高くなります。
造影剤の多くは腎臓から排泄されるため、腎機能の悪い方ではさらに悪化させる可能性があり、造影剤を使用できない場合があります。
重篤な副作用の発生する割合は、非常にまれといえる数字ではありますが、決して100%安全な検査ではないことをご承知ください。

《検査室において造影剤を注射するときには》

1. 注入直後、体が熱くなることがありますが、直接の刺激であり心配ありません。
2. 勢いよく造影剤を注入するため、血管外に造影剤が漏れる場合があります。
この際、注射した部位が腫れて、痛みを伴うこともあります。
基本的には、時間が経てば体内に吸収されるので心配ありません。
非常にまれですが、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となる場合もあります。

当院では、万が一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。
異常が現れた場合はご遠慮なく、すぐにお申し出ください。
もし副作用が発生した場合、最善の処置をいたします。

年 月 日 時 に上記のとおり説明しました。

説明医師 _____